









世  
 四  
 月  
 廿  
 日  
 遺  
 物  
 遺  
 族  
 氏

武蔵女子大学図書館	
昭和49年2月15日	911.147
	Ko
247249	

德有



吉澤文庫

[illegible]



四寸 橫寸六分。小堅六寸 橫寸六分。  
 大寸 橫寸六分。小長一尺一寸 橫寸六分。  
 古哥 尺一尺一寸 橫寸六分。  
 保之

細初言有頭且尤右頭實  
古哥抄上流下句讀低二三ナ  
保之

此百人一首夏

和歌者流

説三新古今集ノ哥ハ花ノミ

寶アルウダノスクナキヲナゲキテハ礼ヲカリニ実ヲムネト

エリワケマセシヨニコレカレヲソヘテイヘル  
説ヨム六ム機ムタレクナラズ

其  
明  
月  
記

彼卿  
實錄

文曆二年五月廿七日

中  
里右  
嵯峨中院

障子色紙形故予可書之旨彼入道

中院入道賴綱  
卜云人佐年都宮  
除三郎云

為氏卿ノ母入道シテ蓮生ト云ル此頼綱ノ母又ナラム  
此頼綱女ト安子藤為章年山紀聞ニ考ヘルセリ是ニ

卷之九

ツキテ彼百首ノ樗モ我連生法師ナラムト云ル説モル人イヘシテ諸君  
アラネバ猶明月記ニ定家卿ノ深草事トシルサセタマヒシテモトヨリ奇モ  
エラヒトリ給ヒレコトハフメタル多ク各官給簡者ノ又法ヲバ右説ノ下ク彼  
卿ノ御櫻トスルコソオカアカナリケレカクテ彼入道ノ白住ノ地ハ桂ノ下  
津林ト云ル処ニテ我連生寺トテ名コリノ庵ヲノコセリ亦中院ト云ハ







木間亭（歴世傳）先生性源（有政績續）藤原（皇國）子切（益罪）天保五年甲午（紀藩人）

氏田中宇羽山俗稱順次號英令

亦歌文集所（言）聖令筆道會（窓）三

好識堂柳 大皇國之學師（住）古柳田

阿禮亦太朝臣安磨（言）詠歌裏

柿本人麿山部赤人西詞聖書跡

習（一）吳天乘院尊圓親王（何）得妙奧

殊於言（言）活者證（振）振（古）史（自）成

及發明一家其正說之大功不讓（春）

真訓宣長（三）洞（實）可於天下國主

宸一大人也。不論真直意（仰）見者宸言（靈）靈人曾世一勇門輩（迷）



大智天皇

林乃田（云）かりいの

へれ（云）とあり

衣（云）れはあふぬ

はは

大智父舒明天皇太母  
皇女皇極神明重祚姫  
天皇也天皇壽若名鳥城  
亦中大元御謚天命開別天  
皇都道江宮皇太孫  
十年壽平公崩御葬於  
山城岡山科市陵北天皇  
人皇卅九代也至天保年  
當千一百七十六年余  
因言說此詠云非天皇  
所製調是言也直  
萬葉集十卷詠露哥  
可考



下歷紀數

表と裏の反

今  
壽  
之  
長

年  
曆  
人  
元

いりふりふあ

乃  
く  
や  
ぬ

柿本丸

行來れうの

屋の  
 あり  
 け  
 あり

野  
山  
隱  
士  
圖

ひきね

抑來臣孝昭天皇皇子  
 天押帶賜子命後之姓氏  
 錄云敏達天皇御世依  
 家門有持樹謂持來  
 臣氏天武天皇十三年賜  
 改御臣人皇四十代天武天  
 皇同四十代持統天皇而  
 朝之大人也。千五百八十年命



山部宿禰、顯宗天皇  
 辛未、即部小楠賜山  
 部連天武天皇十二年  
 成、宿禰見日本書紀入  
 皇十四代元正天皇同甲  
 丑代聖武天皇而朝矣  
 也。千百九十年余

山部赤人

田部

らるる

白橋

うれち

雲

百五

猿丸人丈

猿丸、名丈、  
 土佐ノ合千重、八集

わい

う

う

う

う



祖父大納言贈從二位  
安白父大納言從二位  
藤人。千百六十年

中納言家持

去所ふ

鶴丸

ふれ

ちる  
櫓

板

又

ぬる

重  
の

百餘六

本清仲丸

と原つり

ふれと表白なる

こち

の

ふり

か

月

うも

孝元天皇太子大友  
命後右傳中務卿  
船守。千百九十九年



攝奈良九子弘仁  
入。千百廿九年命

喜撰法師

之魔名

之

之

世とらふ

人まふ

百七

小野小町

花乃多

うらにうら

いふ

我力せう

観

性音<sup>キナ</sup>有<sup>リ</sup>未<sup>ミ</sup>女<sup>メ</sup>物<sup>モノ</sup>於<sup>ニ</sup>  
小町故有<sup>リ</sup>数<sup>ス</sup>説<sup>セ</sup>不定<sup>ニ</sup>  
或<sup>ハ</sup>正<sup>シ</sup>證<sup>シ</sup>女<sup>メ</sup>亦<sup>モ</sup>國<sup>クニ</sup>分<sup>リ</sup>復<sup>シ</sup>  
又<sup>ハ</sup>良<sup>リ</sup>實<sup>ニ</sup>媛<sup>ハ</sup>等<sup>ヲ</sup>皆<sup>ニ</sup>  
亦<sup>モ</sup>町<sup>ニ</sup>但<sup>ニ</sup>正<sup>シ</sup>説<sup>セ</sup>者<sup>ヲ</sup>  
文<sup>ニ</sup>德<sup>ニ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>衛<sup>ヲ</sup>世<sup>ヲ</sup>歌<sup>フ</sup>  
人<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>小<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>氏<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>近<sup>ニ</sup>江<sup>ノ</sup>  
国<sup>ノ</sup>志<sup>ヲ</sup>賀<sup>シ</sup>郡<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>村<sup>ニ</sup>  
出<sup>ル</sup>。千<sup>ニ</sup>六<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>餘<sup>ニ</sup>



旧本今昔物語云々  
天皇式ヲ御雜色  
後蟬丸。千六手余

蟬丸

あるもいふ毎

あふりう。

れや、いふ。れ安

りもいふも

わとていふ  
吾 彼

百八

父参議正位下等守  
父徳実録仁壽三年  
三月参議左大臣從事  
任小野朝臣實重  
。千六手余

参議

いふ原十

あるもいふ毎

れや、いふ。れ安

あふりう。



從四位下良家朝臣  
男大連宗少將良家朝  
臣宗貞出家于遍耶  
○千六年

僧心遍照

王時

云々

中

少年  
素ク形

湯成院

行  
葉  
率  
見  
根

上門家

家此門

盛  
深

御父清和天皇御母  
二奈后御諱貞明  
○九百五十九年



兼和五年土月嵯峨  
 天皇才八子大京氏所  
 産源朝公の十一年

河原右大臣  
 に

千のれ

真深  
 千のれ  
 千のれ

白十

えな人皇

秀の  
 我の

春の野  
 女

いのち  
 智

つかひ  
 心

御父仁明天皇御母孝  
 元子天皇御時康  
 元孝八年即位御年  
 五十九仁和三年崩  
 九百廿一年

齊  
 水火合解注書也

齊  
 水火合解注書也



中  
細  
言  
附  
年

玄道玄

乃心若

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

立用川  
山城久世川  
久世川

阿保親王弟五子正三  
行中納言行平也母  
但豆內親王右近東  
中將。千六年

在

約

茶子

32, 17

瑞々笑

知居

はらあぶる  
逸ト  
振

代  
神  
代  
也

三



荅原史公男武智智台  
子富士之智子右近助方  
將。千六年

藤原行朝

[illegible]

仁孝  
勤

伊勢守菴原朝臣  
繼蔭女。子六年

校  
 八  
 好  
 中  
 日  
 春

なま　波  
くさ　速ノミヤ  
かた方畧  
見シ

無加参入  
一見之如テ詭

祭給  
（茂人）  
<sup>ヨレノ</sup>

倒語

寒九ノミヤ

のゝとみよるあ

せとてや



御父陽成天皇母主殿  
頭遠歩女也。永紀畧  
天夢六年七月生。皇品  
兵部卿元良親王。薨死  
。九百五十六年

えに親王

いね

いね

いね

いね

いね

長月の

あ

あ

素性法師

い

い

鮮衣珠衣  
僧正通昭在停時子  
大和物語技桑略記  
等記之。九百五十六年

名

酒

標

水

尾

助

車

赤

大

タ

タ

タ

タ

タ

將

近

布

タ

タ

タ

タ



葉六 葉生

字文琳古今集序冬何  
掾文屋氏天武天皇皇  
子二品長親王後  
。九百四十六年

文屋

中

中

中

中

康考

志

風

河

人江十里月金

あ

あ

あ

金

あ

あ

参説音人御男  
作者部類云延喜  
二年兵丁大監。九泉

三三三



沛父屋是善卿也  
 昔相與沛父道安年多  
 天皇侍讀文昌泰三年  
 右大臣同四年為太宰權  
 帥延喜三年二月薨  
 於西府。九百辛年

菅家

六つじ登

ねきつサノ約  
 頭多

おひ

ちの  
 丹鋪

汁の  
 丹鋪

と原右人

あう

あうやれ

う

きうら

う

父内大臣高直此在  
 方公也延長二年正月  
 大納言任左大臣兼  
 八月薨。十一年



父昭宣公基經也貞德  
忠平延喜九年權中納言  
右大臣延長三年左大臣同  
八年權政長平六年大政  
大臣天曆二年兼贈正一位  
謚貞信公封義濃國  
。九百九十九年

とく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也

月二日

中納言貞輔

祖父丹舍人食國全  
中將利基弟補延喜  
共三年冬議延長從三  
位中納言同八年兼  
右衛門督兼平三年  
夢。九百九十六年

ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也  
ふく心若也

月二日

出水



父一馬式ノ御是急親王  
 光孝天皇御子宗子  
 朝臣右京大夫正四位  
 天武三年辛酉九百  
 廿六年

心  
 里  
 冬  
 乃  
 百  
 世  
 源

佐知  
 御恩

乃  
 乃

龍  
 乃

乃  
 乃

増  
 乃

人  
 乃

乃  
 乃

乃  
 乃

乃  
 乃  
 乃

古今集序  
 御厨子所願  
 津彦根命  
 造等  
 九百七十九年

乃  
 乃  
 乃  
 志

乃  
 乃

乃  
 乃  
 乃

乃  
 乃  
 乃

乃  
 乃

乃  
 乃  
 乃

乃  
 乃



古今集序右忠門府生  
士生臣姓氏錄天官司  
押人命後左道來將監  
筆播廣種少掾全生  
直益成。九百七十九年

わき  
の  
ま  
か  
く  
あ  
は  
れ  
な  
い

連無

アハハハハ

木角宿祿者紀氏先  
也一說友則宮內少捕  
在友子古今集序太  
記。九百七十八年

紀友則

若くは  
 心  
 智  
 海  
 鏡

○ 三 九



父道成号興風院庵太  
下能推大塚延喜五年  
相模守從五位下六百

教原

興風

多れを所

とく人主能

高

松茂

物ヲシメテ人々トシ

向

名

友

句

一

坂

乞則

月とくかま

ふりしし

仁婦

まね

朝政

アサホガウヤノミ

あまの

志

中

坂上姓之祖後漢孝  
靈帝四代孫河内侯  
拾芬抄云大内記  
六百八年



新名宿松子延喜元年  
任壹岐守成文章  
六百八年

春道列樹  
心  
木  
風  
能  
加  
字  
多

古今集序書所  
預作者都類云云  
八年三月十八日任水頭  
同九年辛  
和奇集序云云  
頭從五位下  
九百廿一年

紀  
君之

人  
是  
心

志  
可  
知

心  
是  
心

心  
是  
心



大系圖云令親王  
孫房則子從五位  
下〇七百七十八年

清原深春父夏

アウキノミ  
ナハムトモ

冬夜月

冬夜月

冬夜月

月夜

月夜

月夜

月夜

文屋

白

白

朝康

風

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃



大和物語を字繩  
少将女。六百七十八年

右

くさくさ

と

もくもく

じ

のら

る

し

あ

くもあ

丁

春

生

あ

あ

あ

あ

祖父大内言弘卿父中内言  
希卿天曆元年任参議  
同五年二月十日薨七十三  
一説云辞参議後  
八百七十八年



祖父與雅王父尊  
八百七十八年

平魚鹽

わわ

志

に

乃多

ふ

色

と

りお

い

り

も

わい

あ

百廿三

主生忠見

主生忠家子  
八百九十八年

忠

あ

早

人

主

主

あ

初



祖父原養父下野守  
顯忠元祐肥後守。  
六百七十八年

清原之補

契子之

千握ノ四

ふりり

神  
○衣  
新

ひふふの

ねやま

い

百十四

み  
え  
をに

ふれ  
た  
とハ

中  
細  
言  
教  
忠  
遠

は  
後  
い

は  
心  
あ

父承院在位時  
母在原棟梁也天  
孝文三子  
言同  
八百八十八年



父系右大臣定家公事  
山蔭卿也朝忠天曆三年  
冬後四任同土主右忠  
門督為使別當大德事  
正四位下應和三年中納言  
同十二月薨。八百十年

中納言朝忠

人々力と

あゆみのまて

新絶多根多ナリ

うさし

一々々々

酒

あまも

ふ

包

酒

一人

なれ

包

石

ゆかえて

力の

式

いふ

ぬ

父九条右大臣源徳公伊予  
天録元年任右大臣同  
二年大政大臣同三年薨  
贈五位封三回  
○八百七十八年



任丹後掾号曾丹  
 寛和之頃人姓氏録云  
 曾根連神饒見命六  
 世孫伊香我色雄命  
 後八百四十八年

曾根好忠 仍一

乃

乃

乃

乃

乃

乃

八重海志計

乃

乃

乃

乃

一説寛和之頃人  
 八百四十八年



祖父負元親王公後  
下侍後身信重之者  
冷泉院東宮御時帶及  
八百六十八年

源 重 之

風をこ

り

波乃の

こ

くわ

か

父神祇大副頼基朝臣  
天兒屋根命之裔  
八百十八年

人 中 后

能 宣

ひ、朝臣

わき、  
河内

あはれ  
東古れ

く大の

ふか

ひら

こえ



看

藤原義孝

邦

かき  
に

敬原

子

寶方

三子

朝臣

子

Handwritten notes in cursive script, likely representing musical notation or lyrics.

祖父小糸元大匠時卿  
實方右中將正五位陸奥守  
八百卅八年



祖父九条元金師持  
父法住寺為光公  
八百九十六年

藤原

明子

信

信

信

信  
信  
信  
信

百林百首花

道經卿父東三茶持  
政事家道經卿長德  
二年任名將同三茶持  
母正位下倫室女  
八百九十六年

信

有

人

道經

信  
信  
信  
信



儀同三司伊周父中納言  
道隆公母從二位高階真  
人成忠女從三位貴子。  
八百四十八年

儀同三司母

子息の

り末の

り末の

子息の

子息の

人納言公

子息の

子息の

子息の

子息の

子息の

祖父小野宮公頼公頼  
忠公母三司公勢卿代明  
親王女公任卿公系大納  
言。八百四十八年



父大江保衡上東門院  
女房和泉守道真妻  
。八百平八年

初家式部卿

じ

あせれり

一交

あふ

雅

あふ

あふ

家式部卿

あふ

あふ

祖父大江保衡上東門院  
從五位下左京為時也  
左京門下左京為時也  
。八百平八年



父老京宣孝母燕武部  
大貳成章妻為後系院  
清乳故叙三位。七百執

至 人貳之位  
有 有るに  
時 時うう

風 風  
そ 人  
を 人

父大和守時用運衛妻  
代家草依若也尉馬  
衛門。八百四十六年

よ 亦 流  
て 流

の 福 福  
月 月  
か 月



父和泉守橘道昌  
和泉式部。八百九十九

人枝いづれの

いづれの  
道の

小式部内侍

いづれの

いづれの

いづれの

いづれの

百六十六

平磯人補いづれ

祖父祭守本大臣能宣  
卿臣父祭主補親朝  
高階成順之妻。八百  
平六十九

いづれの

いづれの

いづれの

いづれの



父清原元輔  
○八百四十六年

ふん えて

うりれ

うね

うら

うき

うせり 清少納言

うら坂の

右京人まね

人 今冬うらにいえ

うきとらる人

うきとらる人

うきとらる人

父伊國色道雅長和  
五年從三位萬壽三年  
四月遷左京權大夫長  
元九年薨 年八十八  
七十九年



樟中細言主抄

父在御定頼長之季  
任權中納言同平次  
長久三年正月同平次  
致仕明年正月薨

○九百九十八年

源

氏

朝  
何  
あ

宇治乃門番

あ  
河

え  
く

本  
あ  
く  
く

相  
梧  
恨  
い  
か  
あ

神  
く  
く

あ  
く  
く

あ  
く  
く

く  
く

名  
く  
く  
く

神

父源頼光朝臣盛説為  
大江山及妻為相摸守  
号相摸守。七百九十八年



父參議基平卿号平寺  
院僧正保安四年補延  
歷寺座三天治三年五月  
仕大僧正。八百九十八年

人僧正

行尊  
屯

身  
に  
か

人  
人

家  
人

父周防守平繼仲或説  
冷泉院女房作者都類  
白同院女房依云彌  
川院女房。七百八十八年

周防内侍

表此夜

禮  
表此夜



許父冷泉院母贈皇太后  
 起子并侍居貞寛弘八  
 年即長和五年懷仁  
 寛仁四年朔月廿七日  
 卒

之陳流

りる

りる

りる

りる

りる

りる

能因法師

りる

りる

りる

のいりる

りる

りる

りる

父肥前守元愷在俗  
 時長門守永愷住持  
 国古曾部号古曾都  
 入道。七百八十八年



住大原由見後拾遺  
集能因法師同時人  
百七十九年

一  
 三  
 五

し  
か

に  
あ  
あふ  
あふ  
え

夢を  
れ  
と  
う  
に  
回  
れ  
梅

人納言經信

河内府

27

祖父六条左大臣重信公  
父權中納言道方卿經  
信義保四年正二位  
永保三年權大納言寬  
治八年太宰權帥  
嘉保三年正月薨於  
西府八十一。七百十九年



散位平経女紀伊  
守重経妹也依  
号紀伊。七百八  
年

祐子内親王女紀伊

号

一の濱女

浪女

や社

し

ふ砂丸尾上の様

り

や

丁

権中納言

席

音人子古維時沐先匡房  
奉賜成衡寛治八年  
権中納言。七百十八年



父大納言經信卿佐賴朝  
臣左頭 左京亮從  
四位上。七百廿八年

源俊賴

羽后

るき  
ん

う  
う  
う

ん

い  
う  
ぬ  
を  
人  
を  
初  
の  
ふ  
わ  
り

契子

う  
せ  
も  
う  
う  
う

今めし  
藤原基俊

あ  
れ  
し

の  
う  
ふ  
し  
う  
ち

祖父源朝臣賴定父  
正二位右大臣俊家其後  
從五位下左衛門佐。七百  
廿九年



父知豆院南白忠実母茶  
右大臣顯房公女於延慶  
應保三年出家長寛三年  
四月薨。六百十八年

法恒入道

高田白雲

和田乃原

右記

今是片心

雲井

入行門

崇徳院

新々々々

一せうの

乃れ

一わ

乃

大御父鳥羽院太母侍賢  
御院侍講顯仁保壽年  
御即位永治元年遷保  
元年移潜岐國  
崇徳院  
七百十二年



父美濃守俊輔 弟昌  
從五位下 皇居宮大進  
七百四十八年

清 乃 島

ら じ

か り

や け

源 龜 昌

い く

は る ぬ

き ち

の

林 風

り せ か り 雲 の

く へ ん じ ゅ じ ゅ

の れ ち ゅ 月 乃

新 乃 乃 乃 乃 乃 乃

新 輔

父顯季卿也保延三  
年從三位同五年左京  
大夫同七年皇居宮大進  
久喜年正三位七百四十八年

源 昌



待賢門院鳥羽院皇  
后白河神祇伯顯  
母。七十九公平

待賢門院

いふる 協河

ふん くら 群

おと 心も

いそ ち くら 病 うら 若

後 海 太 ち 有 大 臣

祖父徳大寺実能受  
大炊内門左大臣公能  
中納言信卿公。百秋

あり

の 分 け け け け

おの ね ね ね ね ね ね

れ け け け け け け



祖父對馬守敦輔父  
伯部直治孝道國  
本名敦賴從五位下  
右馬介。六百六十年

道周法師

さるゆ

いんげんめい

ぬんげんめい

友原清輔

いんげんめい

やまのけい

いんげんめい

父左京大夫頭清輔  
朝臣大皇太后宮大進  
正四位下。六百六十年



祖父納言忠家卿父權  
中納言俊忠卿後成卿  
仁安三年正月正信承安  
二年二月皇太子宮太文  
者永三年出家号教阿  
元久元年十二月晦日薨  
九十一。六百九十二年  
別有數說不定但正說  
文德天皇御世人也

山

あの中

い

乃

大后ふたは成

麻

か

い

あ

秋

や

い

う

福

い

あ

あ

い

復

恵

い

い

法

い

大納言経信卿孫佐頼  
朝臣子也。七百十八年



父在門大吏康清望  
代勇主住法皇自松時  
念佛道遂遁世

七百九十八年餘

西行法師 如

なる

字とる月 溪

わん

めとあき

下

わらふけ

ぬ

のふ

床蓮法

父後海阿闍梨  
為後成師養子明月  
記云建仁二年七月廿  
本時許泰上在中安  
少捕入道寂蓮逝  
六百七十八年

あふのりえれ

師

病

あき

いね

あき

ら



自嘉祥院崇徳院后  
法性寺通公女別當  
大皇太后宮亮後隆女  
百七十八年

皇加門流御

てや

い

な

う

れ

江の

一

の心をけり  
福豊一夜

式子内親王

清父後白河院御母儀  
三位成子大納言季成  
卿女御院准三宮  
二百六十八年

な

な

頃

あ

朝

い



祖父後白院列爲行  
憲父從五位下信成  
殷富川院後白河院皇  
女。六百五十八年

も 殷 富

の 門 院

人 捕

春

も 和

あ

あ れ

小 鳴 の

ら

神

ハ

後 京 柳 柳 政 事 殿

祖父、法性寺忠道公後  
法性寺兼定公母從三位  
藤原秀行卿女。六百  
五十八年

之 子

大 臣

高 子

取

楊 子



大市父後白河院大市女  
大納言經実卿女權坂  
原三位頼政女。六百  
八十八年

二重流

三つ

源政

みえね

武社

沖の石

冬

冬

人冬ーらね

いー南

福倉右大臣

せれかーはるま

もしなあーあま

小のあまはか

いー

父右将頼朝卿母北條殿  
女政子也建仁三年叙從左  
下補征夷大將軍建曆  
三年正位建保四年推  
中納言同六年内大臣同年  
右大臣左大將如元同七年  
正月薨。六百六十八年



父刑部卿賴經母頭  
雅女雅經婦永久三年  
從三位同左月參議同幸  
逝去年兄宗長卿  
。吉光八年

春議

雅經

人々のいれ姑風

ふきしり ぬりまふじり

むしり

なま

市人増ふ

けり

な

意圖

うたせの

けり

氏り

ふ

うた

柳

す

の

父法性寺忠道五僧  
正始名道快後改  
慈園嘉録元年入  
滅謚慈鎮和尚  
。六百三十三歳



父防城内大官室家公女  
前中納言基家次女  
寛元三年八月薨年十四  
六百平八年

入道前右近衛

花と地ふりゝのた

高々々て

うりりゝのきゝり

なゝゝゝ

権中納言之助

ぬ人なゝり

かれゝゝのたゝゝ

やゝやゝゝ

りゝゝゝ

父茶三左衛門成郷母若狭  
守基原親忠基定家  
卿建暦三年九月薨年三  
任侍從建保六年七月  
民部卿嘉祿三年三月  
羅部卿叙立任常務  
四年正月任權中納言貞  
永元年十二月薨年天福  
元年出家号明静仁祐  
二年八月廿日薨年八  
十祿元極中納言六百平



父主事納言光隆卿  
母太皇太后宮亮元家  
女嘉禎三年四月薨  
○六百五十八年

夕れ

あけ

あけ

あけ

從二位 家隆

風

あけ

あけ

あけ

後鳥羽院

人

あけ

あけ

あけ

大御父高倉院太神母  
贈左大臣信隆公女  
御成○六百五十八年



大寺父後鳥羽院太師母  
贈左大臣實季卿女  
御謚守成。天保六年

順法院百穀

至うに水端

君思ふ可なり

相あふまゝに成

り志あるまゝに

○いんぎんうき秘曲うき水  
世にいつてあふまゝに梓ふのせ  
あふまゝにうきうきあふまゝに  
ねだる人その心をうきうき

天保六年  
乙未冬  
官刻  
紀藩家藏



助梓隨喜社中讃吟

祝 一萬首滿談中一詞

華頂山寮司代直大和尚

とて酒能所外のうは直なりとも 万もものか大人いっさ王

同

堀河東岸瑞蓮寺速瀬花庵

名士の吟やうらなれ海よりへん大人いっさのうらなれ

家風傳万世

紀藩稻葉越智通孝

一の草もよ虫の糸に吹なすうたの月こそうら代名いさ

月

本間人詞集月明集三卷有

關東佐条社司佐条定勝

名もいそはさやうらなれあたるうたのま古のうらなれ

祝

都

永井

保定

うらなれうらなれをひりて一の草も天のうらなれ

同

天直著皇統律例傳七卷有

示志野

玄来方

うらなれうらなれをひりて一の草も天のうらなれ

祝

重村

保方

うらなれうらなれをひりて一の草も天のうらなれ

増補社中吟

夏月 ゆめをうらなれうらなれをうらなれ

光頼寺

北山尊者

杜白雨 日新をうらなれうらなれをうらなれ

觀音寺

示光寺

初づ虫 あつたをうらなれうらなれをうらなれ

長泉寺

大元寺

若中舟 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

福生寺

傳齋寺

夕顔 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

正壽寺

法政寺

萩 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

紀藩

稻葉通誠

七ツ琴 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

同

松田善朋

海霧 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

同

服部保生

糸魚 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

喜

久田宗利

麻 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

角

遠藤為親

考鶴玄 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

同

津川尚利

月節雁 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

同

外村武重

池水鳥 うらなれをうらなれうらなれをうらなれ

同

戒定寺







うらたなまをうたの面れ極た内をうたうたあか

浦月

海陸軒志詩和南

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

釋教

湖東 慈光寺主

あいつふあいつあいつふのふのふをうたうたあいつふのふと

月

光祿寺頭男老松

ゆらゆらの海ふらふら月と雲のふれんあいつふのふと

関

本心庵瑞采

うらたなまをうたの面れ極た内をうたうたあか

隣泉

羽心玉村

中庭をうたうたあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

梅谷

北尾智采

ま風の吹のふらふら月と雲のふれんあいつふのふと

大田垣連月

柳

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

○

五節舞姫

若川好義

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

英舎主人あめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

保之大人あめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

虫

松尾政業

あまのふのこめくあめあわそ月と舟のふれんあめ浦波

友

松本義寛



くもりなきやいの友にわらわの月とある

候 権介

桑原内 八幡社 大田 恒吉 敦

ひそのやろく人うはうてのいのちものうらぐれやう

芳

南城 久永 正真

かみ川やハキの旁のよ木とがく風の中ふゆふ

権 甫

猿橋 正雄

きつふらひの海もあめの月とえゆの友と

水 鳥

後藤 好徳

まけふきくひてふじ月のきくふ

勝 月

猿橋 秀鷹

大田 恒吉 二

夕暮れきくふ花のよきとけきくふ

旅 中

北尾 泰之

そとくつてきくふきくふのきくふ

杜 君

今井 俊民

ゆるしきくふきくふはあきくふ

郭 云

永井 保定

いの名れきくふきくふきくふ

新 樹

北澤 保忠

いやくふきくふきくふきくふ

権 野

北川 嘉諱

ゆふきのきくふきくふきくふ

夕 顔

浅野 敏樹

木間 玄人 なる

北村 俊徳



いふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

号

田中正長

いふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

名所記

高田友益

いふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

○

保之太人ふふふふ

西堀五百枝

えふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

澤柳

猿橋新子

のうたれきつあやも人ふはひふあふ

月下翁

永井房子

風うたれきつあやも人ふはひふあふ

真直吟

山洞書

正法院在同上人

林うたれきつあやも人ふはひふあふ

龍鶴

蓮池英後上人

あふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

雲月

海珠真龍和尚

すふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ

池水

本心庵瑞雲

いふふふのうたれきつあやも人ふはひふあふ



縁梅

大田垣蓮月

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

月節虫

湖東佐木社 佐木定勝

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

月節虫

西園綾戸社 松本義寛

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

月節虫

白川八幡社 大田垣古敦

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

松詞主六

行路梅

後藤好徳

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

雲雀

南戒 久米正興

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

藤

北澤保忠

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく

鴛鴦山春花

高田友益

秋の月かや夜をく月の心く秋の月をく



永井保定

此面の雲の墨好もあつて、毎々、水の流るるを。

北村俊徳

わやめとてハ業とて其の如く神よひても源な

陸楊守一

若う代のつさぬあつとやうの素書とててく市川らぬ

猿鵲秀鷹

世をてつふめくこと神は新くあて知をすあつ去日神の月

松詞

田中正長

ちぬ己ゆ月乃あ申も能うそわとけあふけりふ松原

妻の所にて

張野敏樹

いづれ世はかたきともかたき春のゆかり  
まはれ

原

北川嘉淳

わをりふのうもいふふむきあふつひう  
のふ

野  
熟

積福龍子

秋ふみ時々の風ふちうて空をうり  
る新うい舞



永井房子

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

六  
依橋將  
一

このむなれなるなつかしくやきうけてあり、ふを

松詞二六

保之大人著書目錄

歌字古今論

哥体近古の如く  
力多の書

言正考

考 秘本 祖言声母のか  
一卷 詰とあかししる書也

三綱柏三卷

一子、皇國悉  
日云々言盡上

子源氏物語

源氏一部の大意の  
書

國歌贈荅辯

一巻  
贈答の  
要例と上り

神能息吹

卷 倭勢略の記行

法能潤

潤  
一卷  
大和路の記行を記す

猶能清苦

上下 上右の雅言とひやく

二聖國歌抄

抄  
三卷  
柿本小部西聖の  
序秋の真詮人

高彙真調撰

詞撰  
一巻  
万葉集のつらね  
奇とあつり書

都々傳

一卷 秘本

くつと鬼の偽書

三言聖舍活骸文集

集  
三卷  
大人の文集



國歌青柴垣

古跡近侍家の  
必用の書

豊秋津引傳

神代卷上正史  
の解

皇國正言

日本國中  
正記の大綱

本言傳

皇國の本言の考書

言聖舎松詞

天人の家集

真直歌

大人乃高詠

百人一首言聖抄

百人一首の  
分解

墨林花鳥帖

大人の真跡の  
法帖

勢語辯

伊勢初巻訂本の  
三卷解

古今集活註

古今集の注

言聖舎筆稿

大人の筆集  
初巻より五巻五十五巻

己上百卷

社中蔵

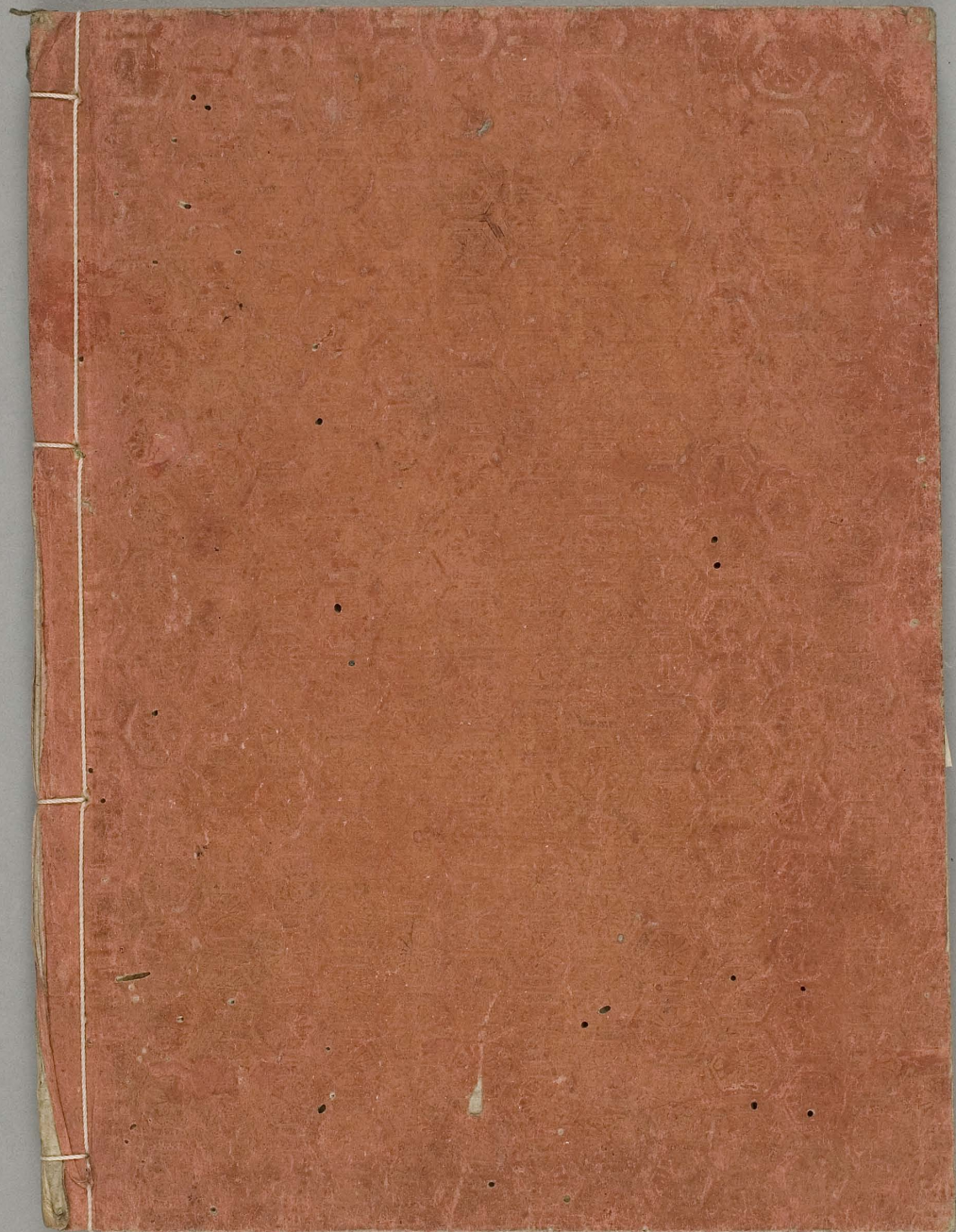
製本所

三條寺町東

鳴屋仁兵衛









○ 根父... 又九... 延... 一... 植...

○ 利... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 目... 二... 又... 又...

○ 全... 丹... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 九... 大... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...

○ 古... 又... 又... 又... 又...